



浜宮祭 写真右は浜宮(石祠)

神郡宗像に初夏の漂い 五月・浜宮祭齋行



引き続き、同市江口の五月ヶ丘に鎮座する五月宮へ移動。五月宮は大きな榊の木を御依代とする神籬祭場で、その前庭に浜宮祭と同じく神饌をお供えし、

風薫る五月五日こどもの日恒例の五月浜宮祭が、宗像市神湊の浜宮で、引き続き同市江口の五月宮で齋行された。早朝、奉仕員一同宗像市神湊の住宅街に鎮座する浜宮へ出向。浜宮の御社殿は石祠でその御神前に海川山野の味物に加え、「赤飯」「粽」「ガメの葉饅頭」「菖蒲酒」など端午の節句ならではの神饌をお供えし、午前十時三十分浜宮祭を齋行

神島宮司以下神職四名が奉仕し、当大社責任役員、氏子会、地元総代神湊地区の各区長をはじめ地元の方が多数参列した。



五月祭 写真右は五月祭の依代である神籬

午前十一時浜宮祭参列者に加え、江口区の各区長、福岡県立玄海少年自然の家関係者、地元の方が多数参列する中、五月祭を齋行した。同宮は釣川の河口に鎮座し、海からの浜風が往時の『濱殿』を髣髴とさせる心地よい祭典となった。

祭典後、五月宮すぐ横の当大社五月齋で直会が催され、神島宮司より五月浜宮祭の由

6月祭事暦

○毎月1・15日 月次祭

1日
午前10時
高宮祭 第二宮・第三宮祭
引き続き
宗像護国神社 巡拝
午前11時
総社祭(浦安舞奉納)

15日
午前10時
高宮祭 第二宮・第三宮祭
引き続き
宗像護国神社 月命日祭
午前11時
総社祭(豊栄舞奉納)

相洲五郎入道正宗、名刀の代名詞のごとく伝えられている鎌倉時代の刀工である。その作風は、古伝書によると地肌の美しさは、「地に真砂子を敷くがごとし」などとたたえられるように、匂いのふくよかな湾れを基調とした刃文を持ち、焼刃の沸の美を最高に表現している。



刀剣の鑑定は、増鏡によると後鳥羽天皇により平安時代にすでに行われていた。近世になって本阿弥家が目利きとなり、磨き上げられて無名になった刀剣に、いかなる刀工の作かを鑑定し、その極められた名を基に金象眼した。後に豊臣秀吉から折紙を出すことが許され、元來贈物の目録であったものが正作である保証書の役割を持つようになった。折紙付きと言う言葉は、これによって生まれた。

正宗の刀は、作風が日本刀の歴史を大きく左右している程美術性、芸術性に優れているばかりではなく、実用性にも抜きん出ている。戦国武将石田三成が所持していた太刀には、棟に大きな切り込み疵がある。通常大きな疵を持った刀は既に折れているのが普通で、かなり剛性を持った刀であったとおもわれる。

先日、テレビで刀の刃に向けて銃を撃つ場面があった。至近距離から発射された秒速三百メートルの弾丸は真二つに切れたが日本刀は刃毀れ一つなく、その美しさを保っていた。剛性が証明された瞬間であった。

(T・U)

神具・装束 結婚式場調用品
福岡店 〒812-0045福岡市博多区東公園2-31
電話 福岡(092)651-9456番
本店 〒600-8231京都市下京区油小路六条北入
電話 (075)341-3341(代)~4番
(075)343-3341番

木組の家 匠の技
総合建築業 株式会社 弘江組
〒811-3406福岡県宗像市稲元1025 電話(0940)32-2567

緒を交えた挨拶があり、参列者一同連綿と受継ぐことの大切さを憶いながら菖蒲酒で乾杯。榎の若葉が敷かれた折敷に盛られた赤飯・ガメ煮・臍・粽を古式ゆかしく栗箸でいただきながら、神人和楽の一



浜宮祭

刻を過ぎた。稲の成長を予祝する祭事でもあるこの五月、浜宮祭が始まり、神郡宗像では田植えが始まり、水田の水面に早苗が影を浮かべながら、夏へと近づいていく。



五月祭

元来は端午節句の祝祭であるが、今から約六〇〇年前の当大社の祭事記録「正平年中行事 鎌倉御供下行事 応安神事次第等」によれば、本来の早苗月(早苗を植える時期)の信仰に外来の節句が相重なり、中世におけるその祭事では田植神事・田楽に加え、京風の競馬・流鏑馬・真弓・彗射等も行われ、その様子は秋の「放生会」に対し「五月会・大神事」と呼ばれる程の賑わいをみせていた。当時は、海上に社殿を設ける「浮殿造り」の「瀆殿」という御旅所が江口浜河口に設けられて、五月五日この瀆殿へ田島宮現川辺津宮から、三宮沖中辺津宮と許斐宮宗像市王丸、織幡宮宗像市鐘崎宗像五社の神輿が御幸した。現在の浜宮・五月宮いづれも瀆殿の置かれた地と推察されている。中世に隆盛を極めたこの祭事も、宗像大宮司家の断絶等により江戸期には中絶されたが、昭和三十八年五月五日二〇〇年振りに斎行され今日に至る。当時を伝える社報宗像二十九号昭和三十八年六月一日発行には、宗像市郡内の神職らが奉仕し、十二体の神籬が刺し立てられたこと、一五〇人の参列があったこと、浜宮祭終了後、みあれ祭の御座船と同じく紅白の吹き流しを靡かせ、五月宮まで陸上神幸したこと等、当時の様子が記録されている。

宗像大社菊花会 玄海小学校に菊資材を贈呈



当大社職員より菊資材を受け取る児童たち

全校朝礼終了後、同校児童代表へ当大社職員より菊資材が手渡されると、「みんなで力を合わせて頑張つて、秋には立派な菊を咲かせます」と大きな声で御礼の言葉をいただいた。続いて、玄海小学校のボランティア団体「匠の会」会長「大森正史氏」による菊作りの講話があり、贈呈式は終了した。

ゴールデンウィーク明けの五月七日、「宗像大社菊花会(会長川島雪茂氏)」が、地元玄海小学校へ菊栽培に必要な肥料等の資材を贈る贈呈式が、今年も同小体育館で行われた。この資材贈呈式は、玄海小学校児童をはじめ早川正史校長以下各教員、PTAの熱い思いを受けて、今年で早五年目を迎えた。

玄海小学校では児童の情操教育の一環として、宗像大社菊花会匠の会などの全面協力を得て、平成十二年から全校生徒で菊作りを行い、秋には校内菊花展を開催すると共に、十一月に当社境内で催す西日本菊花大会に、生徒達が丹精込めて作った菊を出品している。一・二年生、三・四年生、五・六年生と学年により育てる品種も違い、

学年が上がるほどレベルアップしていき、五・六年生では「大輪の三本仕立て」を作る。神郡宗像の秋を彩る子供達の菊が、今から待ち遠しい。



児童代表による御礼の挨拶



「匠の会」による菊作りについての講演

氏八満神社 立柱祭・上棟祭齋行

去る、四月二十一日氏八満神社本殿の立柱祭並びに上棟祭が齋行された。

氏八満神社は、宗像大社の上高宮齋場がある宗像山の中腹に鎮座する田島区の産土神で、永祿八年(二五六五)創立といわれている。

御祭神は第七十七代宗像大宮司正氏の後室、菊姫第七十八代宗像



上棟祭

午前十時、立柱祭を齋行。修祓

の当日は、宗像大社より神職三名と施工業者株

弘江組代表取締役花田和彦氏、深

田組社長深田和也氏外工匠五名

大宮司氏雄の室、侍女四柱(花尾局・小夜女・三ヶ月・小少将)を御奉齋し、併せて上高宮初代大宮司宗像清氏の霊、稲庭上神社、中殿社、貴船神社が合祀されている。

近年、本殿、拜殿とも老朽化がすすみ、十年前より田島区の氏子で浄財の積立をおこなってきた。昨年、ある程度の資金に達したことに

より、田島区で氏八満神社改築建設委員会を設立。そ

して、本年二月二十四日には改築の起

工奉告祭、仮殿遷

座祭が齋行された。

立柱祭・上棟祭

の当日は、宗像

大社より神職三

名と施工業者株

弘江組代表取締

役花田和彦氏、深

田組社長深田和

也氏外工匠五名

が祭典を奉仕した。

午前十時、立柱

祭を齋行。修祓

降神の儀、齋主祝詞奏上につづき立柱の儀が行われ、工匠がそれぞれの配置につき、花田工匠長の合図により、振幣役の工匠が幣を左、右、左と振り「エイ・エイ・エイ」と唱え、振幣の棒尻で幣盤木を撞くと、この音を合図に応声役が「オー」と答え、槌打役が声に応じて木槌で柱固めを行うと、清々しい槌音が境内に響き渡った。最後に参列者一同が玉串拝礼を行い立柱祭は終了した。

午後四時半には上棟祭

が齋行された。祭典前、大屋根の

中央に幣串を、左右に破魔矢(天

の弓)地の弓置き齋場を調えた。

修祓の儀、降神の儀、祝詞奏上に

つづき、上棟の儀を行う。先ず、

引き綱の儀が行われ、参列した氏

八満神社改築建設委員会吉武正行

委員長を始め委員一同、宗像大社

高向権宮司、氏八満神社責任役員

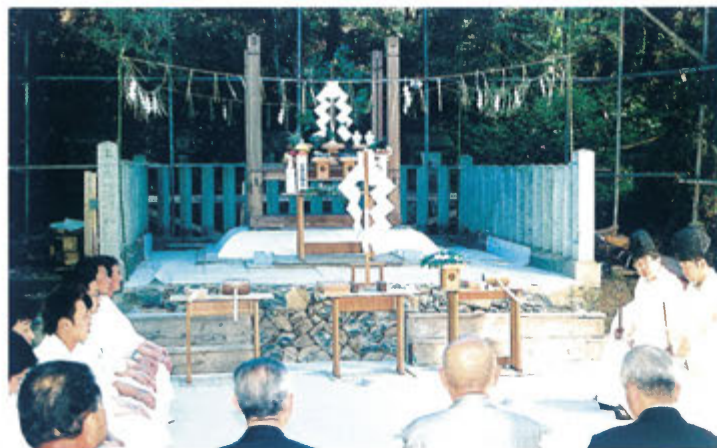
田島区長外関係者一同が紅白の引

き綱握り、振幣役の掛け声に合わ

せ、「エイ・エイ・エイ」と唱え、

三度綱を曳く。同じ所作を三度繰

り返し行い棟木を上げた。続いて



立柱祭

工匠四名が屋根に上り、振幣役が御屋根を見上げ千歳棟と大声で唱え、幣を振ると、棟に上がった応声役が「オー」と答え、槌打役二員が棟木の本来を打ち固めた。続いて「万歳棟」と、三度目は「永永棟」と唱え幣を振り、木槌で棟木を打ち固め、家屋の神・工匠の神に神殿の守護を願った。最後に参列者一同玉串を捧げ無事竣工を祈念し、上棟祭は滞りなく終了した。

この後の祭儀としては、八月に拜殿の上棟祭を、十一月には正遷座祭を齋行する予定となっている。



建設委員会、行政関係、宮総代らの面々



施工業者らによる立柱の儀

平成十六年度 宗像大社奨学金・宗像大社荒井奨学金
受給生奉告祭へ受給生は延べ 六九五人に



昭和祭で奉納された『浦安舞』

前十一時からの「昭和祭」に参列した。昭和祭終了後、拜殿に昇殿し奉告祭を齎行。宗像市郡校長会代表に続いて奨学生代表が玉串を捧げ、宗像大神様に立派な社会人になるよう勉学に勤しむことを誓った。

四月二十九日昭和祭で賑わう御本殿で、平成十六年度宗像大社奨学金・宗像大社荒井奨学金受給生の奉告祭が齎行され、本年度の受給が決定している六〇名が御神前で勉学に励む誓いを新たにしました。
当日は宗像市郡内の中学を卒業した高校一〜三年生六十人が保護者とともに御本殿に参集し、午

祭典後は清明殿で、「選定書授与式」と「説明会」が行われ、神島宮司から宗像大社奨学金選定書を、

当大社の奨学金制度に賛同され平成十二年から支給している宗像大社荒井奨学金選定書を、(株)セントラル・ユニ会長の荒井範雄氏が御都合により欠席された為、宗像市郡中学校長会を代表し中富校長(玄海中学校)からそれぞれ手渡された。

その後担当神職が説明を行い、直会として大社手作りの「かしわ弁当」を一同で頂き、本年度の受給奉告祭を終了した。
当大社の奨学金制度は、昭和三

十四年十一月十一日、今上陛下の御成婚を記念して制定、翌年の昭和三十五年に第一期生として、宗像市・郡内の中学校出身者(当時は六中学校)に支給され、現在は宗像市・郡内十中学校より各校二名づつ毎年二十名に支給している。今春の新受給生二十名で延べ人数は六九五人にのぼる。
「郷土を愛し、将来の日本を背負う有為な人材の育成(宗像大社奨学金受給生規約より)の制定の趣旨にそぐった社会人になることを切望する。」



昭和祭で玉串を捧げる受給学生代表と保護者

第四十四期 新奨学生 二〇名

- 古賀 克裕 (大島中卒)
- 船越 麻衣 (")
- 成清 雄太 (玄海中卒)
- 黒木志惟名 (")
- 宮本 和毅 (日の里中卒)
- 野副 沙季 (")
- 伊豆 夏織 (宗像中央中卒)
- 岳藤 佑輔 (")
- 松尾 俊寛 (城山中卒)
- 橘 陽子 (")

- 山岡 秀成 (河東中卒)
- 平田 準一 (")
- 岩 美奈子 (自由ヶ丘中卒)
- 白石 沙紀 (")
- 長 拓也 (津屋崎中卒)
- 小島 美希 (")
- 木村 誠也 (福岡中卒)
- 山中 彩華 (")
- 新水 麻里 (福岡東中卒)
- 竹本 満 (")

平成十六年度の『奨学金受給生便り』は六ページ下に掲載しております。



神島宮司より宗像大社奨学金の選定書を受ける受給学生代表



中富校長より宗像大社荒井奨学金の選定書を受ける受給学生代表

玄海未来塾 沖ノ島清掃奉仕

当大社沖津宮が鎮座する沖ノ島で四月二十一日、宗像市の町おこしグループ『玄海未来塾吉武邦彦代表』の会員十六人が清掃奉仕を行った。

沖ノ島は島全体が御神域であり、原則として一般人の上陸が禁止されているが、同グループは六年前から、年に一度一般の参拝が可能な毎年五月二十七日の現地大祭前にボランティアで

清掃している。

宗像市の沖合い約六〇キロに浮かぶ、周囲四キロの沖ノ島に上陸後、全員で海に入り禊をし、沖津宮で正式参拝。

その後、本殿に積もった落ち葉を落したり、海岸に流れ着いたゴミを拾った。回収したゴミは軽トラック一台分。ハンダ文字が書かれた容器や、メキシコ製のボールもあった。



周知の通り、宗像市・大島村では昨年未から沖ノ島を中心とした宗像地域の世界遺産登録運動が本格化し、そのシンボルとなるのがこの「沖ノ島」である。

玄海未来塾の吉武代表は「宗像のシンボルとなる地域の宝を、いつまでも守り続けたい」と話されていた。

大社の御神宝 10 昭和の御造営③



的な準備が開始された。主要な十二のお祭りの

日時は天皇陛下より御治定を仰ぎ、来春の山口祭・木本祭を皮切りに

九年間に約三十回のお祭りが各

宮社で斎行されるとい

う。さて、今回ご紹介の撤下神宝は次の品である。

御櫛一合

附櫛七枚

豊受大神宮別宮

月夜見宮御料

附櫛七枚

御櫛一合

神宮では、平成二十五年齋行の第六十二回式年遷宮にあたり、先般、天皇陛下の御聴許を賜り本

鳳凰、飛雲の文様を散らし、身の内側には赤地唐錦が張つてある。銀平文とは、漆塗の途中で文様を

切り取った銀の薄板を張り、さらに漆を塗り重ねてから漆の表面を研ぎ出して文様を表すもので、奈良時代から行われた漆工技法による文様の名称である。正倉院の御物にも数多くみられ、それらは「平脱文」と呼ばれる。前回ご紹介した御鏡に付属する轆轤宮にも同じ技法が施されている。御櫛宮には付属品として七枚の黄楊の櫛があったが、御料の櫛は竹の堅櫛であったが、御料の櫛は横櫛で、これも唐の影響を受け奈良朝以降にさかんに用いられた形である。七枚の櫛は赤地唐錦の袋に入れて納められている。

ところで、式年遷宮の始まりはいつに遡るのだろうか。それは遠く白鳳時代の天武朝に制定され、持統天皇の御代に始まったとされる。南北朝時代から満二十一年目ごとに遷宮は行われ、途中、戦乱による中絶の時代があったものの、これまでに六十一回を数える。二十年ごとに新地へ御殿舎を造替し、そこに神々を遷し、御装束や御神宝を新調し奉るといふ御儀は、先人の努力により絶えること無く繰り返し行われた。この千三百年の歴史と伝統からは、人々の播き無き、熱烈な信仰心がうかがえる。

(続)

宗の寄物

184

いしい ただし



四月に津屋崎小学校校舎内に「在唐坊跡展示館」がオープンした。平成六年二月に津屋崎小学校校庭の改修工事が行われたが、その時に津屋崎町教育委員会によって発掘調査が行われた。調査で大溝や井戸、柱穴、祭祀等の生活・信仰遺構が確認され木簡や中国宋代の龍泉窯系青磁や同安窯系青磁白磁などの輸入陶磁器が大量に出土した。またこの付近の地名がとう唐防古くは唐坊地とか柳ヶ宿と呼ばれ、中国貿易と関わりが予想されていた。遺跡の正式名称は在自西ノ後遺跡



である。唐は唐人・坊は区画を表す言葉で、唐坊とは唐人の住む一角の意味と思われ、いわば唐人街である。唐防地の地は、郡市的な場所の特徴つまり賑やかな土地の意味といわれている「網野善彦著『中世都市論』「日本中世都市の世界」」。要するに唐防地とは「唐人居留外国人」の住む賑やかな地域の意であろう。

「津屋崎の唐防地は柳ノ宿と呼ばれていて繁華な土地柄を思わせる」津屋崎町史

中国人の居住地をあらわす地名、柳ノ宿などの地名が残る遺跡もあり、大量の輸入陶磁器群となれば、ここが中世において歴史的・文化的に重要なところであるか理解できよう。その一角が保存展示されることになったのである。

原始から古代にかけての遺跡や古墳の保存はあるが、中世の遺構が残される例は極めて少ない。学校内に遺跡を持ち、調査後保存されている例は、福岡市博多区の博

多小学校と西区の西南学院大学で共に「元寇防塁の石造物」である。遺跡を残し、公開展示まで行った津屋崎町の文化財行政は高く評価されている。

遺構は上から見るようになっていて、柱穴土器溜り、井戸址などが見える。全体的には広々としている。解説も平易である。陳列ケースには、出土した木簡や下駄、曲物櫃、箱陶磁器類はすぐそばで見れるのもよい。

町内の出土遺物も併せて展示されている。勝浦高原遺跡52号貯蔵穴出土の銅鐸鑄型、新原・奴山44号墳出土の鋸、生家釘ヶ裏遺跡出土の移動式カマド、在自小田遺跡出土の陶質土器の壺、勝浦水押古墳群出土の金銅装頭椎大刀は出土物と復元も展示されている。どれも古代史における津屋崎の文化的高さを示すもので、一見の価値がある。見学は学校内にあるため平日は出来ない。土日祝及び学校休校日に見学できる。

開館時間 九：〇〇～一七：〇〇
入館料 無料

問合せ先 〇九四〇(五)二二三四
(内線二六〇)
津屋崎町古墳公園建設準備室

平成十六年度宗像大社奨学金受給生便り①

福岡大学附属大濠高等学校 一年 宮本 和毅 (日の里中学校卒)

この前、宗像大社に行き、奨学金の奉告祭・説明会等に出席しました。大社に入ったとき、僕はとてもなつかしい思いがしました。なぜなら僕は、幼稚園の頃から宗像大社春季奉納剣道大会という毎年行われる剣道の試合に出ているからです。その中でも一番僕が思い出しているのは、小学六年生の時に、この大会で準優勝をしたことです。あれが最高の思い出でした。なぜなら中学の部活に入ってから不調で負けっぱなしだったからです。

しかし、今回僕が日の里中の代表として、奨学金受給生になったからには、つらいことがあっても振り切り、がんばっていかうと思います。今のところまた剣道部に入るかは定かではありませんが、私の大濠高校は進学校でもありますので、勉強を主に新しい高校生活をがんばろうと思います。

最後に奨学金についてですが、通学用のJ-Rの定期券、地下鉄の定期券に使わせていただきます。

東海大学第五高等学校 三年 川元 瀬里名 (河東中学校卒)

私は今年の受給生説明会に出席して、一番心に残ったことは、担当者の方がこの奨学金は神様があなたを選んでくださったって、神様からお金をいただいていると言われたことです。今まで自分はずこし調子にのっていたと思いましたが、だから神様が喝を入れてくださるために、奨学金の保証人のこといろいろ探めて、ご迷惑をおかけしたのではないかと思います。でも、そのおかげで今私は、立派な正しい考え方をもち、常識的な大人に絶対なりたいと強く思うようになりました。

また、私がいじめられた高校に通う人には必ず受給して絶対には負けたくないと思います。父親がいなくても立派な祖父がいなくても、両親健在の人より社会に貢献できる人になりたいです。そう強く思えるきっかけを神様が私に与えて下さったと、最近思えるようになりました。担当の方が「神様が味方についてくださっている」とおっしゃられた事は本当だと思いました。考え方が変わったので気持ちがとても楽になりました。ありがとうございました。

最後になりましたが保証人の件では、ご迷惑をおかけしてすみませんでした。そして、いろいろな配慮をさせていただいて本当にありがとうございました。これからは、今の気持ちを忘れずがんばっていきます。あと一年間よろしくお祈りします。



竣工当時、東洋一を誇った千葉製油所も石油業法により、生産は能力の半分に制限された。

決断力

その時昭和の経営者達は

瀧口凡夫

出光興産株式会社

出光佐三

店主 その15

石連脱退、業界の一匹狼に

「自由競争させよ、需給の調整や価格の決定は市場に任せよ。業者は消費者のため、社会的使命と責任を自覚しながら事業経営に当たれ」

いわば、アダムスミス流の自由競争原理をサムライの倫理観で実行する。

これが佐三の主張であった。そこには、創業以来の悪戦苦闘の中で培われた、強い自信の裏打ちがあった。

事実、佐三はこのころ石油審議会で意見を聞かれたとき、委員たちを「学識無経験者」と決めつけている。

「学識無経験者からみれば立派な法律だろうが、私のように一生を石油にささげておる経験のあるものからすれば、これは天下の悪法である」と、佐三は言った。

一九六三年度昭和三十八年度になっても市況の混乱は収まらなかった。生産調整の任に当たる石油連盟は、それでも方式を改めようとせず、通産省も前年度方式を踏襲する方針をとった。これが九月まで続く。

出光はここで、石油連盟脱退という非常手段に出た。生産計画は自社で作ると決め、あえて通産省と石連に反旗をひるがえした。最新の千葉石油所の生産を抑えられ、製品を市場で手当てしなければならぬ、という不自然な状況に耐えきれなかった。佐三は記者会見で「石油政策を正道に戻すため」と説明した。新聞記者たちは佐三を「業界の一匹狼」と呼んだ。

まさかの脱退だから、業界も通産省は福田一大臣みずからが佐三に面会を求めた。

ふたりは日比谷の日活ホテルで会った。以下は佐三の話である。

福田大臣は顔を合わせると、いきなり「出光さん、あんたね、人といっしょに仕事をしているときに、自分だけ勝手なこと言っちゃいけませんよ」と言った。佐三もすぐこれに応じた。「大臣、あなたはなんですか。石

油業界のことを知ってそんなことを言うのですか、知らずに言うのですか」

大臣はぐつと詰まった。

それから佐三は、国際石油カルテルの強さ怖さ、出光だけが国際資本にひざを屈することなく

「国家のため消費者のために」奮闘していること、出光がなかつたら、日本の消費者はひどい目にあうだろう、と答えた。

福田氏は、のちに衆議院議長などを歴任した政界の大家で、筆者も記者として接したことがあるが、飾りのない誠実な人柄であった。

佐三によると、大臣は「そうですか」と繰り返しながら、帰りぎわに三回ほどオーバーを着たり脱いだりした。

その後、福田大臣、植村石油審議会会長、佐三の三者で妥協の方向が打ち出され、六六年九月には三木武夫通産大臣が、生産調整撤廃を言明した。これで、出光は石連に復帰した。

佐三はのち、「狼の方が正しかったんじゃない」と語っているが、国家権力を相手にした命がけの戦いであった。

第五一四回

宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メット

浮羽 向 則正

父の顔写真でしかわれ知らず思い出なきに夢にまた出づ

〔評〕 先の大戦で戦死した父恋いの歌。父の顔すら知らず母の手一つで育った人達が今の平和な日本を作ってきたのに、また戦争の匂いがする今の時代に生まれるべくして生まれた歌。

○あの戦争忘れるためにあり経たる六十年か春霞立つと私も詠った。

日の里 石松 弘次

ざわざわと楠の若葉の揺ぐ日人を人質三人俯き還る

〔評〕 風に揺れる楠の若葉は、官民をあげて異常とまで言えるパッシングの声をあらわし、その中を帰国した三人の心情を俯きと表現し、三人をいたわる作者のこころは優しく、巧みな一首である。

日の里 大和 美由紀

ふる里の川の流れば変らねど並びて四、五戸廃屋となる

〔評〕 「私の郷里柳河は水郷である。さうした静かな廃屋の一つである。」と書いた白秋の故郷を恋しく思うところとはやや違ふ。

○水鏡灼る信濃の奥のわが里の絶滅危惧種ヒト科のコトモ 山田 宗夫
と詠った私の友人の気持に近い、益々さびれる過疎の故郷を嘆く歌である。

鐘崎 安永 久子

中国語講義する人受ける人病院に貴重なひとときのあり

〔評〕 入院が一年以上の人達が多かつた戦後の結核病院では、退屈な日々をまぎらすために、俳句の会、短歌の会、その他さまざまなグループがあつたが、作者の入院している病院では、中国語の講義とか、時代の推移を感じさせる一首である。作者の習得した中国語を聞きたいものである。

田野 森 甲子

芽吹き初む山に彩りぬし桜風ふくまに散りてゆくなり

〔評〕 今年の桜は早く咲き何時までも散らずに有った。その桜にも季の移りは確実に迫つて来た。その季の移りを静かに追つていた作者の姿も見えてくる優れた叙景歌である。



大島 杉田 禮子

ならわしの如く彼岸の入り時化やさめ時化ありて季うつりゆく

東旭ヶ丘 天野 玲子

墨汁の蓋を開ければ匂ひたつ墨の香りに心しづまる

日の里 神田 一敏

数多なる不幸を許し給ひたし贖罪の歌百作らん百首

朝野 藤井 浩子

南禅寺の疏水滔滔と流れを短しと思ふ時代の移り

大井 木原 ふさ子

連翹と雪柳の枝入り組みて眩しきまでに咲き撓みたり

池田 森 龍子

リュック負ふ女二人 散歩する吾を横切り野に入りてゆく

田野 森 つるの

庭木の芽小雨にぬれて伸び出たす濃きも淡きも線柔らに

神湊 中山 千鶴

雨戸うつ雨はいつしか治りて朝のひかりに目覚めのやさし

牟田尻 横山 雪子

花つくり止めて久しきに見せ先の花苗の間見回りゆくも

福岡 池浦 千鶴子

トランクの音ひびかせて若きは朝の通りを足ばやにゆく

福岡 中村 勇

無意識に買ひしつま楊枝は中国製千本入りが百円なりき

福岡 香月 照子

カーテンの光の中にゆれている楓のみどりでさわやかな朝

選者詠

吉野のさくら 大野 展男

あけがたの桜の下に来てわれは聴かんとぞする花のささやき

雫すらさくらの色して遠く来し吾にはうれし花に降る雨

花の谷越えて差しくる夕つ日は吉永神社のおほ杉てらす

雨のあと下弦の月はかたぶきて上干本の花の上に浮く

旅立たむ態にあらずや西行の木像見ればはひ尊く



宗像大社歌会 俳句作品集(四八九)

福岡 森 清

高らかに雲雀舞はざる世相かな

東郷 田中 憲象

曲ること知らず育ち葺蒲の芽

光岡 白土 凌一

春の日に夜桜見るかや胸踊る

日の里 花田 いつ枝

雀らの群るる寺苑や夏隣

東郷 宗風社俳句会

目路遙か帰雁の竿の翼浦ゆ

吉田 杏子

海の碧空の青あり花四月

三浦美千代

カナリヤと共に歌ひぬ惜春譜

田中 雨葉

惜春や男波女波の磯洗ふ

木原 房子

鶯の澄む音の間近か朝扇

編集後記

先日、新聞届いてるよあとこの春に県外へ異動され、それまで宗像地区の担当をされていた新聞記者から電話があつた。新しい赴任地にも、たまたまこの社報「宗像」が届いていたのである。▼小生この記者には広報担当になつてから、いろいろ教えて貰った。ユーモアを兼ね備えた、作家五木寛之似容から、ちよつと意識していたの泣い、ペテラン記者で、口も辛かつた。▼左派新聞の記者であり勿論信心家ではなかつたが、心筋梗塞を患い改心。御誠にも受け、神社神道も解つてもらえた頃の異動であつた。▼新しい赴任地の近くにある神社にも参拝したとおっしゃつていた。でもお費しなかつた。なな「相変わらずだつた。今後益々の御活躍をお祈り申し上げます。(M.O)

宗像大社社務所 発行所

〒811-3505 福岡県宗像市田島
電話 0940-62-1311(代)
発行人 伊藤佳和
編集人 大塚宗延
制作 ジーエータップ
印刷 セネラルアサヒ

定価1年送料共1,000円